

柴 都 建 第 6 4 1 号
平成20年10月15日

国土交通省道路局長 殿

宮城県柴田町長 滝 口



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

標記について、平成20年9月19日付け国道企第37号にて依頼のありましたので、別紙様式により回答申し上げます。

今後の道路行政についての意見・提案

①道路行政全般について改善すべき点 要望や提案など

宮城県柴田町

高速交通網整備は各地域住民からの強い要望があり、国においても計画的に実施されているが、地方の交通状況を的確に把握し、実状にあった道路規格で計画することが必要と思う。例えば、利用通過交通が計画段階より片側 2 ～ 3 車線が必要とされ整備されるが、現実的には、片側 1 ～ 2 車線で走行には支障のない路線、殆ど利用されない路線もあることがマスコミから報道されている。将来の増加交通を見込む場合は、国民の理解を得られるような整備根拠を示すことが必要ではないか。

まちづくりを進める上で、住民の要望が高い道路整備は最重要課題ではあるが、事業計画段階より補助裏の一般財源負担に窮しているのが現状と思う。道路は国、県、市町村の色分けが無く、利用者本位で整備すべきであり、国民が等しく利用できる道路網は必要不可欠であることから、都市部と地方の道路整備のギャップを均衡化するよう配慮願いたい。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 2

②-1 地域の現状と抱える課題

宮城県柴田町

○現状

本町の農山間地域は集落が点在しており、集落から市街地への道路が未整備であり、日常生活をはじめ緊急医療、更には消防活動など地域住民の命を守る集落幹線道が1～1.5車線となっている。

○課題

幹線町道の道路整備やネットワーク化が遅れており地方の自立的発展と住民生活の向上を図る上での重要な課題となっている。

今後の道路行政についての意見・提案

宮城県柴田町

②-2地域の目指すべき将来像

本町においては豊かな自然と優れた文化に恵まれた仙南地方の要衝として、産業振興の充実と伝統文化に根ざした地域づくりに取り組んでいるが、地域においては限界集落の定義にあてはまる集落も増えつつある。地域内外の交流・連携を支える道路が未整備であり、通勤通学や緊急時の通過車両が待避所に一時停車しないと交差できない状況であることから、地域間の道路ネットワーク化を促進することが必要である。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施設の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

宮城県柴田町

☐ 重 点 事 項	☐ 代 表 事 例	☐ 期 待 す る 効 果 や 評 価 等	☐ そ の 他